

福部地域未来プラン（たたき台）

～いつまでも住み続けられるまちにするために、
いまできることをみんなではじめよう～

福部町総合支所

目次

1.	目的位置づけ・・・・・・・・・・・・・・・・	P3
2.	地域の現況・・・・・・・・・・・・・・・・	P3～7
	(1) 現況および人口等	
	(2) 土地の利用状況	
	(3) 市町村合併後の主なあゆみ	
3.	地域の特性・資源・・・・・・・・・・・・・・・・	P8
	●歴史 ●特性 ●資源	
4.	地域の現状と課題、めざす将来像・・・・・・・・	P9～20
	(1) プランの目的	
	(2) 施策の柱	
	(3) 構造図	
	・ 4つの柱に沿った施策	
	柱1. 「交流のための基盤づくり」に沿った施策	
	柱2. 「にぎわいのあるまちづくり」に沿った施策	
	柱3. 「誰もが住みよいまちづくり」に沿った施策	
	柱4. 「災害等に強いまちづくり」に沿った施策	
	(4) めざす将来像	
5.	プランの期間と位置づけ、進行管理・・・・・・・・	P20～21
	(1) プランの期間と位置づけ	
	(2) 進行管理	
6.	推進体制・・・・・・・・・・・・・・・・	P21
	(1) 進捗管理について	
	(2) 地域連携等について	

1. 目的位置づけ

平成16年11月の市町村合併以降、本市は各地域の資源を活かしたまちづくりを進めてきました。福部町では、砂の美術館やジオパークといった鳥取砂丘の振興が進み、砂丘地で栽培されるらっきょうの花が市の花に選ばれ、砂丘らっきょうがブランド農作物として認定されるなど明るいニュースが続きました。しかし、全市的な人口減少の中、福部町の人口も減少し続け、近い将来、地域の活力が失われていくことが顕著化してきました。

このことから、平成30年3月に鳥取大学地域学部 山下博樹 教授の協力で「福部町のまちづくり構想」を策定し、福部町の魅力ある地域づくりに資するとともに、まちづくりにつながるような具体的な方向を示す「福部町のまちづくり構想基本計画」を平成31年3月(令和6年3月改訂)に策定し、地域が一体となって特色あるまちづくりを推進しております。

また、本プランは、「福部町のまちづくり構想基本計画」を引き継ぐとともに、「第11次鳥取市総合計画」や「鳥取市過疎地域持続的発展計画」、「鳥取市中山間地域対策強化方針」など、関連計画・方針と整合し、地域振興を目的とした未来に向けたプランと位置づけます。

2. 地域の現況

(1) 現況および人口等

【 1 】 現況

福部町は本市北東部に位置し、北は風光明媚な日本海、東は岩美町に境を接しています。面積は 34.94 km²で本市全体の約 4.6%を占めています。地域全体が山陰海岸ジオパーク^{注1}エリアに属し、鳥取砂丘は代表的な見どころとなっています。鳥取砂丘周辺の砂丘地では特産の「砂丘らっきょう」が栽培され、日本有数の栽培面積を誇っています。



図 1: 福部町の位置図

注1 山陰海岸ジオパーク：鳥取県、兵庫県、京都府にまたがる、地球科学的に見て重要な自然の遺産を含む、世界ジオパークネットワークが認めた自然に親しむための公園。

出典 図1:福部町の位置図 http://iichisoken.jp/publication/researchpaper/117/No.117_153-168.pdf

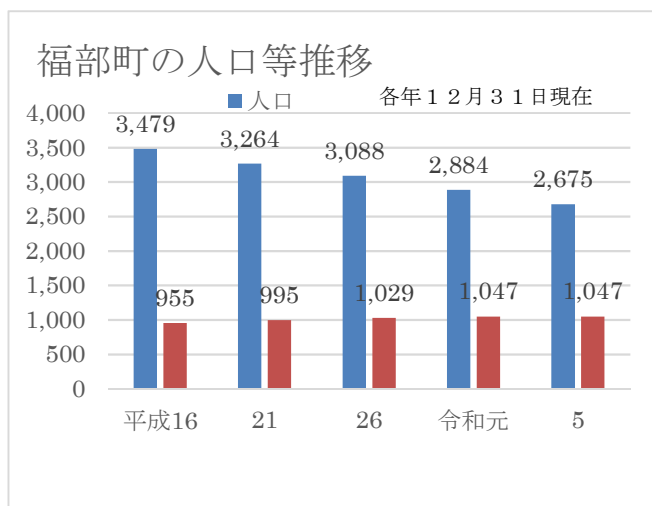


図2:福部町の人口等の推移

【2】人口等

福部町の人口は、市町村合併前の平成16年は3,479人（H16.12.31）でしたが、令和5年には2,675人（R5.12.31）まで減少しています。その割合は、合併後20年間で約23%減少したこととなっています。

世帯数においては、平成16年は955世帯でしたが、令和5年には1,047世帯まで増加しています。合併後20年間で約10%増加しています。

【3】自治会加入率等

福部町の自治会加入率（R5.4.30）は77.2%と本市の平均61.52%より高い水準にあります。これは、他の地域と比べ、本地域には集合住宅が少ないことが要因と考えられています。しかし、近年、単身世帯の増加で全市的に自治会加入率は低下傾向にあることや、若者世帯を中心とした集合住宅への需要の高まりから、今後、何も対策を講じなければ、自治会加入率は低下する一方にあると考えられています。

【4】少子高齢化の進行

市町村合併当初、福部町の年齢3階層別人口構成は市全体の平均値とほぼ同等でした。しかし、約20年を経た現在の構成は、市全体より早く少子高齢化が進行していることがうかがえます。

このことから、今後、何も対策を講じなければ、福部町の少子高齢化はますます進行し、地域の活力低下は避けられない状況となっています。

また、高齢化率は令和5年12月31日現在、36.9%となっています。

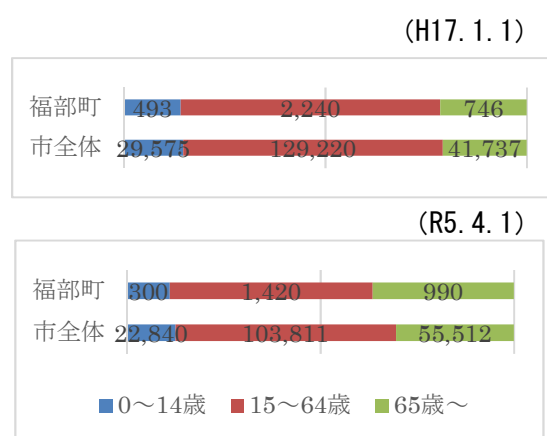


図3:年齢3階層別人口構成

(2) 土地利用の状況



図4:本市の都市計画区域

【1】本市の都市計画区域

市町村合併前の旧福部村では、平成7年度に都市計画マスタープランを策定するとともに都市計画区域を設定し、地域の都市づくりに関する適切な土地利用規制を推進してきました。この計画区域は、市町村合併後、福部都市計画区域として新市に引き継がれています。

【2】福部都市計画区域

福部都市計画区域は、駅前集落から海浜部にかけての町北部が該当エリアで、土地利用方針として、おもに「都市的な生活エリア」と「自然公園及び自然環境保全地域」が設定されています。

一方、栗谷・箭溪集落から山間部にかけての町南部は、福部都市計画区域のエリア外ですが、「自然環境保全エリア」としての土地利用方針が設定されています。



図5:福部都市計画区域

【3】道路網の整備



図6: 道路網の整備状況



写真1: 山陰近畿自動車道



写真2: 岩美広域農道

福部町では、近年2つの道路整備が大きく前進しました。1つは福部町北部地域を横断する山陰近畿自動車道駒馳山バイパスです。この道路は、鳥取・兵庫・京都の3府県にまたがり、山陰海岸ジオパークに沿った整備が進められていることから、「ジオパークロード」の愛称で親しまれています。

もう1つは福部町南部地域を横断する岩美広域農道です。この道路は、農業経営基盤の強化や中山間地域の活性化はもとより、災害時の広域迂回路としての機能や、周辺の観光地を結ぶ新たな観光道路として期待されていることから、「美野梨ロード」の愛称で親しまれています。



写真3: 箭溪川（江川）との合流部の改修状況

【4】塩見川と治水

塩見川下流域では幾度となく洪水被害に見舞われ、昭和54年から河川改修工事が行われています。

平成29年には狭く部の改修が進み、住宅への浸水被害の軽減が図られました。

令和3年から支所上流部の改修が引き続き行われています。

(3) 市町村合併後の主なあゆみ

平成16年	らっきょう販売高が10億円突破
平成17年	福部中学校体育館が完成、らっきょうの花が市の花に
平成18年	岩美広域農道 上野～美歎間が開通、砂の美術館が開館
平成20年	岩美広域農道 蔵見～岩美間が開通、らっちゃんバス ^{注2} が運行開始
平成22年	山陰海岸ジオパークが世界ジオパークに認定
平成23年	福部地域振興プラン（平成23年度～平成27年度）を策定
平成24年	砂の美術館が世界初の砂像展示専門の屋内美術館として開館
平成26年	駟馳山バイパスが開通、福部郵便局が総合支所内に移転
平成27年	地域振興会議がスタート
平成28年	砂丘らっきょうがG I ^{注3} 認証取得、福部未来学園が開校
平成29年	岩美広域農道が全線開通、新インターチェンジ要望活動が開始
平成30年	総合支所庁舎耐震改修工事に着工
令和 元年	総合支所庁舎耐震改修工事完成
令和 2年	福部町コミュニティセンター改修及び多目的ホール増築工事が完成し、複合化施設となる
令和 4年	過疎地域指定



写真4: らっきょうの花（市の花）



写真5: 福部未来学園

注2 らっちゃんバス：公共交通空白地有償運送制度で運行される福部町内循環バス

注3 G I：地理的表示（Geographical Indication）

3. 地域の特徴・資源

●歴史

福部町は、今から約5000年前の縄文時代には既に人が住んでいたことが明らかとなっており、これを示す土器や石器が直浪・栗谷遺跡から多数出土しています。これらの遺跡の成り立ちには地理的に砂丘が大きく関係しており、砂丘こそ福部の人々の生活の母とも言うべき存在であり、福部町の歴史は砂丘から始まったとも言えます。

町の前身である福部村は古代から長く1村でしたが、徳川時代から大正時代にかけて、2～3村の分割と統合を繰り返し、昭和3年に「服部村」と「塩見村」が合併して「福部村」が誕生しました。

「福部」の名称は、この地域が江戸時代に「福田保」と「服部庄」の区域に含まれており、これを1文字ずつ取って名づけたものと言われています。

●特性

①海岸線は、山陰海岸国立公園および山陰海岸ジオパーク※エリアの一部になっており、特に鳥取砂丘は東西16km、南北2kmと日本最大規模を誇り、年間を通じて多くの観光客が訪れ、本市のみならず鳥取県を代表する観光地になっています。

②砂丘地で栽培される「砂丘らっきょう」は、全国有数の出荷量とその名を全国に知られた鳥取県を代表する特産品として確立されており、平成28年3月に地理的表示保護制度（GI制度）に登録されています。また、本市の花でもある赤紫色で可憐な「らっきょうの花」は、鳥取砂丘の新しい観光資源として全国に情報発信しています。

③鳥取砂丘に近い湯山地区には、砂丘観光と連携した「観光梨狩り園」や直売所が多数あり、積極的に観光農業を実践しています。

④福部町の南部地域は、水稻栽培を中心とした純農村地帯であり、農家のほとんどは第2種兼業農家です。

●資源

区 分	主なもの
特産品	梨、らっきょう、エシャロット、砂たまご、砂コーヒー
観 光	鳥取砂丘、鳥取砂丘砂の美術館、多鯰ヶ池、福部海岸、砂丘温泉ふれあい会館、観光農業、らっきょう畑
イベント	鳥取砂丘らっきょう花マラソン大会、アイデア館まつり、鳥取すごい！ライド、多鯰ヶ池手づくりいかだレース

4. 地域の現状と課題、めざす将来像について

(1) プランの目的

このプランは、福部町のまちづくり構想（平成30年3月策定 以下、「構想という」。）の実現に向けた基本的事項を取りまとめることを目的に策定しました。

山陰近畿自動車道の福部町内の適地に新インターチェンジを設置し、それを契機とした福部町全体の活性化をめざします。

(2) 施策の柱

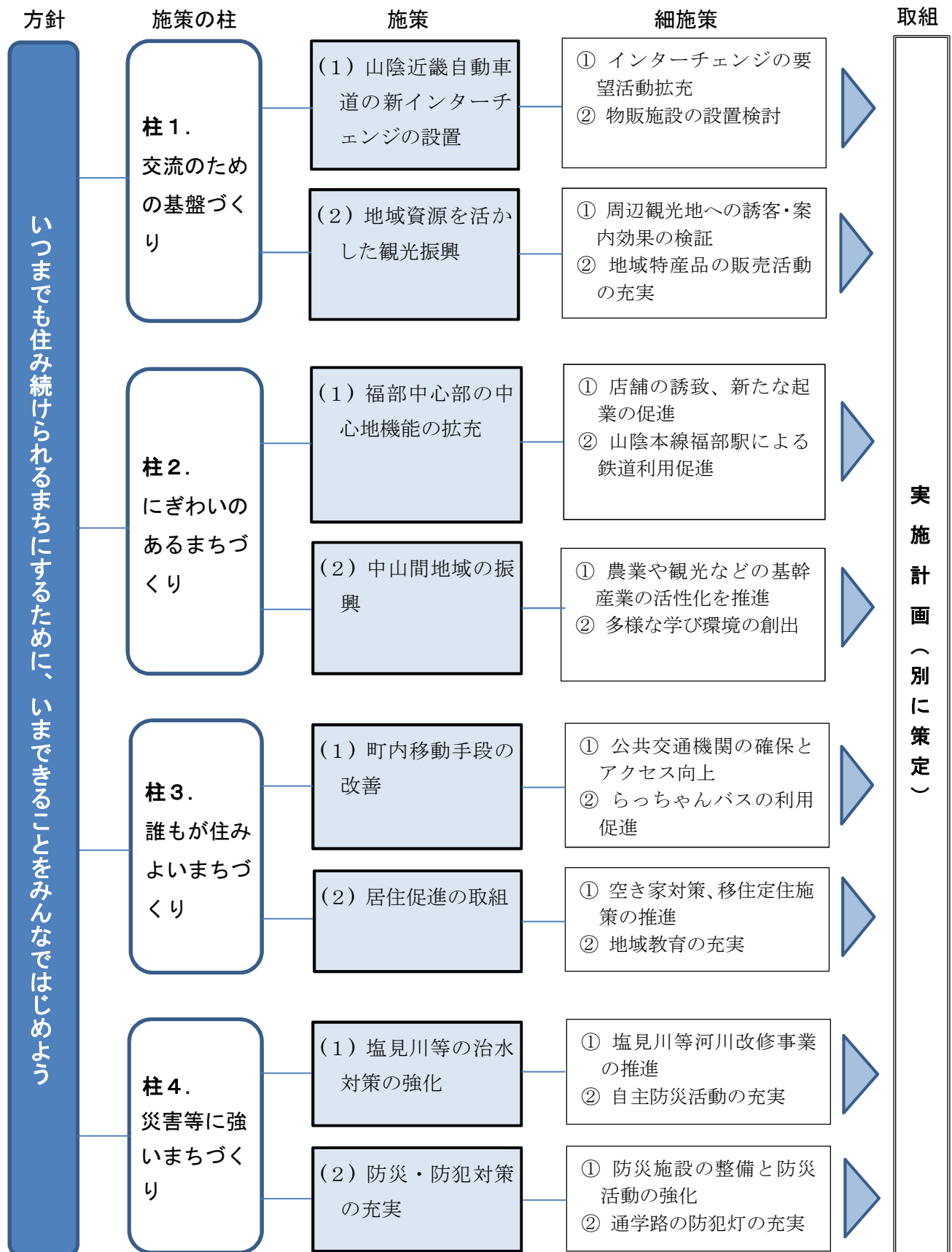
《計画がめざす福部町全体の活性化》

- 1 交流のための基盤づくり
- 2 にぎわいのあるまちづくり
- 3 誰もが住みよいまちづくり
- 4 災害等に強いまちづくり

福部まちづくり構想の7つの課題に、町民の関心の高い「防災・防犯対策の充実」を加えた8つの課題を施策とします。各施策をグループ化して4つの柱にまとめます。

- | | |
|----|--|
| 柱1 | ①山陰近畿自動車道の新インターチェンジの設置
②地域資源を活かした観光振興 |
| 柱2 | ③福部中心部の中心地機能の拡充
④中山間地域の振興 |
| 柱3 | ⑤町内移動手段の改善
⑦居住推進の取組 |
| 柱4 | ⑥塩見川等の治水対策の強化
⑧防災・防犯対策の充実 |

(3) 構成図



・ 4つの柱に沿った施策

4つの柱に沿った施策とその基本的な考え方は、次のとおりです。

柱1. 「交流のための基盤づくり」に沿った施策

(1) 山陰近畿自動車道の新インターチェンジ（IC）の設置



図7: 自動車道の整備状況

鳥取県東部では、鳥取自動車道、山陰自動車道、山陰近畿自動車道が整備されていますが、近い将来、これらがすべてつながり、地域に大きな活力をもたらそうとしています。

しかし、福部町を横断する山陰近畿自動車道には、町内にインターチェンジが1か所しかなく、地域住民が利用しやすいものになっていません。

山陰近畿自動車道と市道海士海岸線が交差する付近に新たなインターチェンジを設置するよう、専門的組織を立ち上げ、周辺地域と連携して要望活動を展開していきます。



写真6: 山陰近畿自動車道

①インターチェンジの要望活動拡充

引き続き、国県要望を行いながら、地域住民が暮らしやすい環境整備を進めます。

②物販施設の設置検討

山陰自動車道浜村インターチェンジ付近には道の駅「西いなば 気楽里」がオープンしました。福部町の新インターチェンジも同様に、地域センター型物販施設等と併せた設置となるよう、地域で要望していきます。



写真7: 道の駅「西いなば 気楽里」

近年、道の駅には温泉やデイサービスセンターを併設した施設も見られるようになりました。

福部町が設置をめざす新たなインターチェンジ付近には、展望浴場のある砂丘温泉ふれあい会館などがあることから、これらの施設の利活用や連携についても検討を進めます。



写真8:展望浴場

(2) 地域資源を活かした観光振興

①周辺観光地への誘客・案内効果の検証

きなんせ岩美は山陰近畿自動車道岩美 I Cから約1キロ離れたところにあります。アンケート調査や交通量調査を実施して、周辺の観光施設への誘客・案内効果について検証します。



写真9:岩美 I C周辺

平成18年に開館した砂の美術館は、平成24年に恒久的砂像展示施設としてリニューアルし、毎年40万人を超える入館者が訪れています。

併設のサンドパルとっとりは、鳥取の観光・イベント情報の発信拠点となっています。

また、鳥取砂丘ビジターセンターなどの観光案内施設から山陰海岸ジオパークの鳥取砂丘エリアならではの魅力あるアクティビティなどの情報発信を進めます。



写真 10:砂の美術館

鳥取砂丘らっきょう花マラソン大会は令和5年度に第37回を迎えました。近年、福部地域では鳥取マラソンやトライアスロン大会なども開催されるようになり、福部町は県内有数のスポーツイベントの開催地となっています。



写真11: らっきょう花マラソン

鳥取砂丘周辺では、パラグライダーやサンドボードといったアウトドアスポーツに加え、最近では、砂丘ヨガやファットバイクといった新たなアクティビティも誕生し国内外から注目されています。



写真 12: 砂丘 YOGA

行楽シーズンには、砂丘周辺の道路は渋滞となり、観光客のみならず地域住民の生活にも影響が出ています。新インターチェンジの設置が、観光振興および交通渋滞解消に効果があるか検証を進めるとともに、駐車場の確保に努めるなど渋滞対策を強化します。



写真13: 交通渋滞の状況

②地域特産品の販売活動の充実

福部町でらっきょうの生産が始まって100年余りが経過しました。幾多の苦難を乗り越えた先人たちの営みを顕彰するとともに、歴史を振り返る施設や、らっきょうの試食、漬け方等が学べる施設の充実に努めます。また、資源を活用した体験事業などに取り組みます。



写真14: らっきょう収穫状況

福部町には、砂丘らっきょうの他にも二十世紀梨などの優れた特産品があり、鳥取砂丘にほど近い観光梨園では、シーズン中、梨狩りを目当てとする多くの観光客でにぎわっています。

物販施設の設置にあたっては、地元生産者と連携し、魅力ある施設の設置をめざします。



写真15: 梨狩り

出典 写真12: 砂丘YOGA <https://www.sand-dunes-yoga.com/gallery>

出典 写真13: 交通渋滞の状況 <https://ameblo.jp/ranchu0407/entry-12372266482.html>

出典 写真15: 梨狩り <https://www.tottori-guide.jp/tourism/tour/view/795>

柱2. 「にぎわいのあるまちづくり」に沿った施策

(1) 福部中心部の中心地機能の拡充

①店舗の誘致、新たな起業の促進

コンビニエンスストアでの行政サービスの増加や、公共施設の更新問題を踏まえ、庁舎にコンビニエンスストアを併設する自治体が増えています。

福部町でも、総合支所にコンビニエンスストアを併設できないか検討します。



写真16: 庁舎に併設のコンビニ

青谷町では、旧日置小学校の空き校舎を活用した植物工場が青谷ブランドの野菜出荷に取り組んでいます。

福部町でも、福部未来学園の旧中学校校舎や機能移転後のコミュニティセンターの利活用について検討を進めます。



写真 17: 旧校舎活用の植物工場

岩戸漁港では、海女の就業を契機に岩戸産の魚介類の高付加価値化を支援するとともに、岩戸産の魚介類を使った商品開発や、店舗の誘致、新たな起業を支援します。



写真18: 岩戸産わかめの収穫

福部町中心部や砂丘周辺で軽トラ市のようなイベントを定期的で開催し、地域が稼ぐしくみや、地域で生み出された富を地域で循環させるしくみの定着をめざします。



写真19: 軽トラ市

出典 写真16: 庁舎に併設のコンビニ <http://www.city.hadano.kanagawa.jp/>

出典 写真19: 軽トラ市 <http://yasuda.hatenadiary.jp/entry/2018/04/12/104945>

②山陰本線福部駅による鉄道利用促進

福部駅は明治43年に塩見駅として開業し、昭和24年に福部駅へ改称、昭和47年の無人駅化を経て、現在に至っています。

駅周辺は見晴らしが良く、ホームからは、遠くにらっきょう畑を見ることができます。



写真 20: 福部駅

全国的に駅や鉄道を地域資源としたさまざまなまちづくりが行われています。福部町でも福部駅周辺に、リノベーションによるおしゃれなカフェやにぎわいの拠点が設置できないか、調査・研究を進めます。



写真21: 森の列車カフェ

米子空港は米子鬼太郎空港に、鳥取空港は鳥取砂丘コナン空港に愛称設定され、国内外に知られています。

福部駅にも地域住民や観光客に親しまれる新たな愛称が命名できないか検討します。



写真22: 鳥取砂丘コナン空港

(2) 中山間地域の振興

①農業や観光などの基幹産業の活性化を推進

特産品であるらっきょうや梨などの農産物に付加価値を付け、魅力的な観光資源として全国へ発信しつつ、若手後継者の育成を進めます。



写真23: らっきょうの植え付け

出典 写真21: 森の列車カフェ <https://www.kantenkan.net/>

②多様な学び環境の創出

地域の特色を活かした農業体験や地域住民とのふれあいを通じ、郷土愛の醸成を図ります。



写真 24: 梨の袋掛け

柱 3. 「誰もが住みよいまちづくり」に沿った施策

(1) 町内移動手段の改善

①公共交通機関の確保とアクセス向上

らっちゃんバスの経路や時間帯を見直し、路線バスや鉄道とのアクセスを向上させるとともに、利用者のニーズに合わせたライドシェア^{注4}などの新たな移動手段の可能性を検討します。また、免許を返納した高齢者等の利用が促進されるよう運行形態を再検討します。



写真25: らっちゃんバス

②らっちゃんバスの利用促進

らっちゃんバスの車内に地域住民の作品を展示するなど、住民参加型の取組を推進し、バスの利用を促進します。



写真26: バス車内での作品展示

出典 写真26: バス車内での作品展示 <http://www.city.kitakyushu.lg.jp/koutsuu/08200164.html>

注4 ライドシェア：ライドシェアリングとはウェブサイトやモバイルアプリを介し、専用の貸し切り車両を運転する運転手と乗客をマッチングさせるサービス

(2) 居住促進の取組

①空家対策、移住定住施策の推進

地域が主体となる空き家対策組織の立ち上げや、休業中の民宿を活用した体験型ゲストハウスによる民泊の推進についても検討を進めます。

また、空き家データ集約後には、移住定住希望者への積極的なマッチングを行い、移住や交流人口の増加につながる情報発信を強化します。

免許返納などで高齢者の買い物手段が失われるように、関係機関が連携して移動販売の充実に努めます。併せて、高齢者の見守り活動や集いの場の設置についても検討を進めます。



写真27: 移動販売車

②地域教育の充実

福部未来学園の特設教科「みらい」では、福部の自然や地域の人々からの学びを通じ、豊かな人間関係や地域の未来を考える「ふるさとキャリア学習」を実践しています。また、保護者を中心とした有志で立ち上げた団体である「福部となりのがっこう」が、旧中学校の空き教室を活用して、地元の資源を活用した体験教室を実施するなど、魅力ある学習生活を過ごす中で郷土愛に溢れた子どもの健全育成を進めます。

柱4. 「災害等に強いまちづくり」に沿った施策

(1) 塩見川等の治水対策の強化等

①塩見川等河川改修事業の実施

塩見川の河川改修の進捗により福部町総合支所周辺の治水対策は向上しました。しかし、豪雨災害は、全国的に依然として増加傾向にあることから、引き続き、駅前地区の内水排除等、本事業の早期完成を図るとともに、江川河川改修事業の積極的な促進に取り組みます。



写真28: 塩見川水害状況

また、塩見川下流域における耕作放棄地の保水・遊水機能の利活用について、水鳥公園や親水公園の例を参考に研究を進めます。



写真29: 鹿野町のアス園

塩見川上流域に位置する福部町南部の中山間地域には豊かな水田が広がっています。「天然のダム」とも呼ばれる水田の保水機能を維持するためにも、農業生産活動を支援するなど、持続可能な中山間地域づくりを進めます。



写真30: 清内谷集落の棚田

出典 写真30: 清内谷集落の棚田 <http://furusato-kakashi.net/photoguide-tottori.html>

出典 写真31: 防災無線 https://www.town.aichi-togo.lg.jp/jinji/photodiary/h27_suibou.html

出典 写真33: 水防訓練 https://www.town.aichi-togo.lg.jp/jinji/photodiary/h27_suibou.html

出典 写真34: 防犯灯 <http://www.hiroshimakasei.co.jp/index.php?page=101>

(2) 防災・防犯対策の充実

①防災施設の整備と防災活動の強化

地域住民や観光客へ防災情報を伝える手段として、屋外拡声子局の充実を図ります。

また、福部地域での行政情報を伝達するため、地域内情報伝達設備の更新を進めます。



写真31: 防災行政無線

砂丘温泉ふれあい会館は、福部地域の避難場所として指定されています。今後とも、防災体制の拡充に努め、災害に強いまちづくりを進めます。また、砂丘周辺の観光施設についても、協定などによる災害時の一時的な避難場所としての利用を検討します。

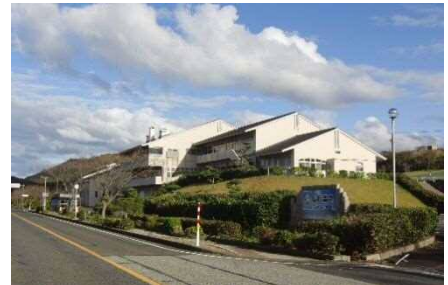


写真32: 砂丘温泉ふれあい会館

地域住民で組織する自主防災会、消防団および行政等が連携し、地域の支えあい体制の強化を図る防災学習や訓練などを定期的実施します。また、自主防災会の母体となる自治会の組織力を高めるため、自治会加入率の向上に努めます。



写真33: 水防訓練

②通学路の防犯灯の充実

通学路の安全性をさらに向上させるため、まちづくり協議会が事業主体となり、これまで整備がなされていなかった集落間の防犯灯の整備を進めます。



写真34: 防犯灯

(4) めざす将来像

心豊かで潤いのある砂丘の郷 福部町

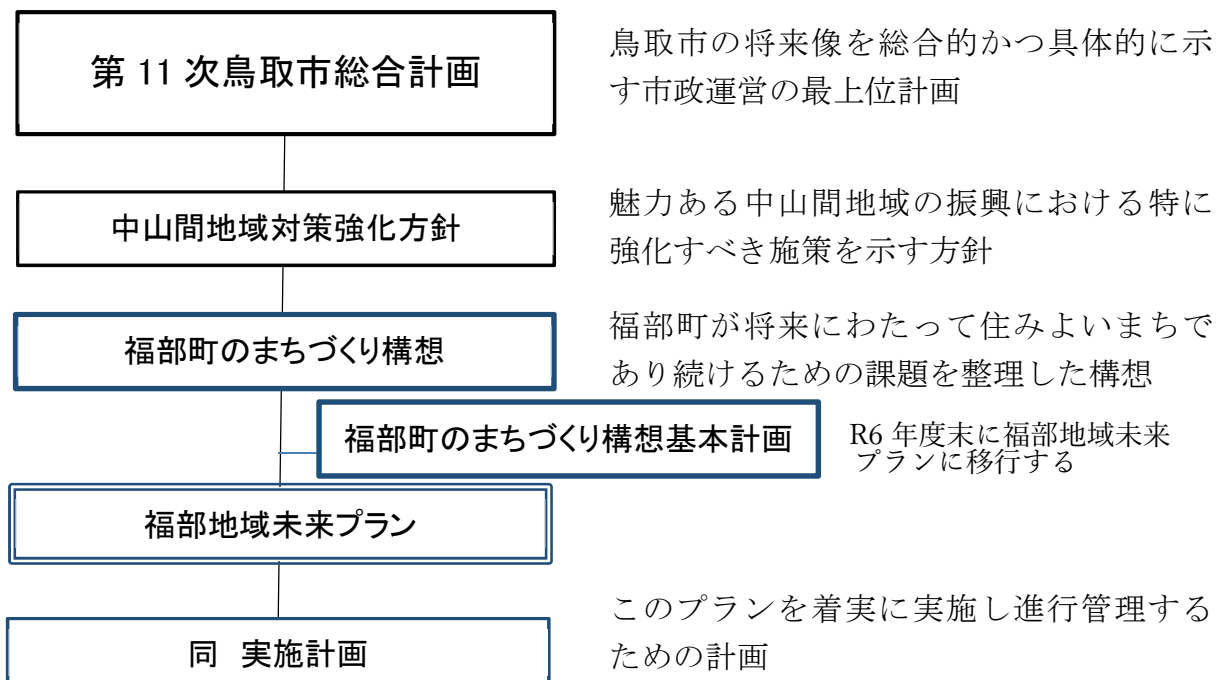
全国的に有名な鳥取砂丘を有する福部町は、雄大な鳥取砂丘の魅力を活かしながら、世界初の砂像の屋内展示施設「鳥取砂丘砂の美術館」、砂丘が生み出す地域ブランド「砂丘らっきょう」、二十世紀梨を代表とする「観光梨狩り園」など魅力ある観光資源と融合した観光・産業振興を行い、「自然と調和し多くの人に親しまれる魅力に富んだ観光地」として、今後もますます発展して行くことが重要です。

また、山陰海岸国立公園を有する美しい自然と人情豊かな福部町の中で住民相互が交流を図り、郷土愛を育み、誰もが生きがいを持ち、健康で快適な暮らしができる協働のまちづくりを推進し、次世代につながる「心豊かで潤いのある砂丘の郷 福部町」をめざします。

5. プランの期間と位置づけ、進行管理

(1) プランの期間と位置づけ

このプランの期間は、令和7年度から令和11年度までの5年間とします。
本市の各種計画との位置づけは次のとおりです。



（２）進行管理

【１】プランの見直し

社会経済情勢等の変化に伴い、今後、新たに顕在化する課題等に柔軟かつ迅速に対応するため、プラン期間内においても、必要に応じて、プランの見直しを行います。

【２】実施計画の策定と継続的な見直し

計画の着実な推進を図るため実施計画を策定し、毎年度、その内容について、有効性の検証を行い、継続的な見直しを行います。

6. 推進体制

（１）進捗管理について

地域振興未来会議（以下、「未来会議」という。）が地域振興の推進に関する重要事項を調査審議するとともに、「福部まちづくり構想」に係る各種計画について進捗管理を行う予定としています。

（２）地域連携等について

プランの推進にあたっては、未来会議が町内の市政団体の意見を集約しながら調整を行います。

また、地域住民へ支所だより、ホームページ等あらゆる媒体を活用して情報発信を行いながら、必要に応じて、関係団体に対して意見や支援を行うなど、地域連携を推進します。